

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：24701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520366

研究課題名(和文)『オデュッセイア』の新たな解釈と受容の研究

研究課題名(英文)A Study of The Odyssey: A New Interpretation and Reception Study

研究代表者

西村 賀子(Nishimura, Yoshiko)

和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授

研究者番号：30180649

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』の作品解釈と後世における受容をテーマに調査した。研究成果を書籍として社会に還元したほか、口頭発表や論文執筆により公表した。作品解釈としては、前半部分の放浪と後半部分の復讐という2つの主題をつなぐものとして「オイコス」秩序の回復を想定し、作品中の様々な要素がどのように整合されているかに焦点を絞った。後世における受容では、ギリシア悲劇や第二ソフィスト時代など古代の著述家たちから、『トロイ物語』など中世ロマン、さらにルネサンス期のペトラルカやボッカッチオ、近現代のジェイムズ・ジョイスやデレク・ウォルコットまで、時空ともに幅広い受容について概観した。

研究成果の概要(英文)：The subject of this study is two-fold: a new interpretation of Homer's Odyssey and reception in succeeding generations. The findings were published as a whole book about the theme. In addition they were put together into some papers and delivered in oral presentations and issued in periodicals. In the part of interpretation of the epic, the main bridge linking the first half of the epic and the latter one is supposed to be the order of 'oikos' the home. The reception study of the poem ranges from tragedy poets and authors during the second sophists age, through romans in the middle ages and Petrarch and Boccaccio, to James Joyce and Derek Walcott.

研究分野：西洋古典文学

キーワード：ホメロス オデュッセイア 受容研究

1. 研究開始当初の背景

最初に本研究の概要を述べると、本研究のテーマは、ホメロスの叙事詩『オデュッセイア』について新しい解釈を試みること、そしてこの作品が古代ギリシア以降、現代に至るまでどのように受容されたかを調査することであった。新しい解釈に関しては、この詩篇の前半部分と後半部分の接続の必然性を精査するとともに、整合的に説明することに主眼を置いた。また、後半部分については、そのテーマをオイコス(家)の再生ととらえ、この視点から、故郷に戻った主人公の言動をとくに召使いたちとの関係性を中心にしながら分析した。その成果を『ホメロス『オデュッセイア』 戦争を後にした英雄の歌』として2012年に刊行したほか、日本西洋古典学会でも研究発表を行ない、日本西洋古典学会の学会誌に「三つの関係軸が絡み合うところ 『オデュッセイア』第23歌465-466行」として掲載された。また、大阪大学での口頭発表をもとに、「『オデュッセイア』のエウリュクレイアをめぐる」という論文を発表した。

受容研究については2012年刊行の単行本に記して以来、ほとんど進展が見られない状態であるが、この研究成果は本務校および非常勤出講している大学での授業で活用されている。授業では文学的受容のほか、絵画・彫刻における受容も扱うため、『オデュッセイア』を中心とした図像、とくにキュクロプス、セイレンなど怪物に関する図像はかなり充実してきている。

次に研究開始当初の背景を述べると、西洋古典学の研究は近代になってから本格化し、とくに19世紀と20世紀に飛躍的に発展した。なかでも古代ギリシアの最初の文学作品であるホメロスの叙事詩二篇は、最もよく研究されてきたと言っても過言ではない。しかしながら、ホメロスの二篇の叙事詩のうち、より多くの注目を浴びるのは、長い歴史のなかでは決まって『イリアス』であった。その文学性の高さ、悲劇性の深さから見て、当然の評価であろうと思われる。とはいえ、ホメロスのもう一篇の叙事詩『オデュッセイア』も『イリアス』にまさるとも劣らぬ名作、いや、傑作なのである。それにもかかわらず、西洋古典学研究誌のなかではこの作品は『イリアス』よりも看過される傾向にあった。ところが20世紀に入ってから風向きが変わり、なぜか『イリアス』よりも『オデュッセイア』のほうに注目が集まり始めたのである。それはなぜか、本研究において作品受容を取り上げた背景には、このような受容史上の潮流の変化があった。それとともに、作品解釈も時代によって状況の変化に応じて変わってくるであろうと推測されることから、現代という時代から射照しうる解釈の試みの必然性を考えた。

以下に英文の概略を示す。The aims of the research were twofold. One of them was to investigate a new interpretation of Homeric *Odyssey*, and the other was to explore the trace of reception of the epic ever since ancient Greek literature till today. As for the former, first of all it was scrutinized exactly how the first half of the poem and the latter half were connected. A consistent connection between them should be accounted for in order to read the epic as a whole. What is focused on in particular in the process of making a consistent interpretation of the *Odyssey* is its latter half, which depicted the protagonist's behaviors. There are a lot of passages that are seemingly difficult to explain rationally. The research introduces a perspective of the household, or "oikos" in Greek. What is necessary is to succeed in reading the three relationships, putting Odysseus in the center, between husband and wife, father and son, master and servants.

The results of the study were already published in 2012 as a book with the title of *Homer's Odyssey: a Song of a Hero leaving behind "War"*. After that a presentation was made in 2013 on the *Odyssey* at an annual conference of The Classical Society of Japan., and then in 2014 at Osaka University. Both of the presentations were later organized into articles, which were published the year after.

As for reception studies, little progress has been made, to be honest, since the book mentioned above was published in 2012. But the subject is dealt with in lectures held at some universities including Wakayama Medical University. In the course of a lecture some pictures of paintings and sculptures are used in addition to talking about literary receptions. That is why artistic receptions of the Homeric poem, including such monsters as Cyclops and Sirens, are now making a way to fulfillment.

2. 研究の目的

本研究の第一の目的はホメロスの叙事詩『オデュッセイア』の新しい文学的解釈の試みである。従来注目されていない場面を対象として、詩篇全体の主題との関連性の観点から新しい解釈を試みる。第二の目的は『オデュッセイア』受容の現状と、この叙事詩の高い再生産力の秘密の解明である。

3. 研究の方法

(1) 西洋古典学の研究方法は文献学的方法であり、テキストをしっかりと読み込むことから出発する以外には方法はない。テキストのほかには、コメンタリーや研究所、研究論文をできるだけ多く、しっかりと深く読むこと、さらにスコリアも参考にできる場合には参照するなど。

(2) 受容研究に関しては、文学作品における受容のほか、絵画・彫刻における芸術的な需要も含まれる。

4. 研究成果

研究成果は、単行本として刊行したほか、口頭でも発表し、さらにそれを論文としてまとめて学会誌などに掲載した。加えて、研究成果は努めて授業のなかに盛り込むように努め、学生を中心に広く社会に還元できる努力をしている。そして学会のホームページにも随想として投稿した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

西村賀子、アルカイク期のギリシア詩人のいくさ歌、文学、第16巻第2号、2015、207-223。

西村賀子、雲をつかむような話、思想、1089号、2015、2-5。

Yoshiko Nishimura、The Reception of Greek Tragedy in Modern Japan、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要、査読有、第10巻、2014、7-13。

西村賀子、『オデュッセイア』のエウリュクレイアをめぐって、2013年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書、2014、9-29。

西村賀子、古代ギリシアの演劇と現代日本、文学、第15巻第2号、2014、40-53。

西村賀子、三つの関係軸が絡み合うところ オデュッセイア 第22歌 465-477行、西洋古典学研究、査読有、第61号、2012、1-11。

西村賀子、志茂淳子、Les aventures de Telemaque の本邦初訳をめぐる書誌学的研究、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要、査読有、第9巻、2012、1-12。

〔学会発表〕(計2件)

西村賀子、原型的乳母 『オデュッセイア』におけるエウリュクレイアをめぐって、第12回ギリシア・ローマ神話学研究会、2014年3月1日、大阪大学待兼山会館。

西村賀子、三つの関係軸の交差点、日本西洋古典学会、2012年6月3日、龍谷大学。

〔図書〕(計1件)

西村賀子、岩波書店、『ホメロス『オデュッセイア』 戦争を後にした英雄の歌』、2012年、237。

〔その他〕

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

ホームページ等

西村賀子「豪華客船のオデュッセウス」、日本西洋古典学会HP、2013年6月10日
<http://clsoc.jp/agma/column/2013/130610.html>

西村賀子『ホメロス『オデュッセイア』 戦争を後にした英雄の歌』、日本西洋古典学会HP、2012年7月1日

6 . 研究組織

(1)研究代表者

西村 賀子 (NISHIMURA Yoshiko)
和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授
研究者番号：30180649

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者

なし ()

研究者番号：